

イーハトヴ童話

注文の多い料理店

宮澤賢治著

菊池武雄挿画装幀

序

わたしたちは、氷砂糖^{こほりざとう}をほしいくらゐもたないでも、きれいにすきとほつた風^{かぜ}をたべ、
桃^{もも}いろのうつくしい朝^{あさ}の日光^{につくわう}をのむことができます。

またわたくしは、はたけや森^{もり}の中^{なか}で、ひどいぼろぼろのきものが、いちばんすばらし
いびらうどや羅紗^{らしや}や、宝石^{ほうせき}いりのきものに、かはつてゐるのをたびたび見^みました。

わたくしは、さういふきれいなたべものやきものをすきです。

これらのわたくしのおはなしは、みんな林^{はやし}の^の野はら^{てつだうせんろ}や鉄道線路^{てつだうせんろ}やらで、虹^{にぢ}や月^{つき}あか
りからもらつてきたのです。

ほんたうに、かしはばやし^{あを}の青^{ゆふがた}い夕方^{とほ}を、ひとりで通^{とほ}りかかつたり、十一月^{ぐわつ}の山^{やま}の風^{かぜ}
のなかに、ふるえながら立^たつたりしますと、もうどうしてもこんな気^きがしてしかたないの

です。ほんたうにもう、どうしてもこんなことがあるやうでしかたないといふことを、わたくしはそのとほり書^かいたまでです

ですから、これらのなかには、あなたのためになるところもあるでせうし、ただそれっきりのところもあるでせうが、わたくしには、そのみわけがよくつきません。なんのことだか、わけのわからないところもあるでせうが、そんなところは、わたくしにもまた、わけがわからないのです。

けれども、わたくしは、これらのちいさなものがたりの幾^{いく}きれかが、おしまひ、あなたのすきとほつたほんたうのたべものになることを、どんなにねがふかわかりません。

大正十二年十二月二十日

宮 澤 賢 治

目 次

どんぐりと山猫	(一九二一・九・一九)	一
狼森と笹森、盗森	(一九二一・一一・……)	二三
注文の多い料理店	(一九二一・一一・一〇)	四三
鳥の北斗七星	(一九二一・一二・二一)	六五
水仙月の四日	(一九二二・一・一九)	八三
山男の四月	(一九二二・四・七)	一〇三
かしはばやしの夜	(一九二一・八・二五)	一二三
月夜のでんしんばしら	(一九二一・九・一四)	一五五
鹿踊のはじまり	(一九二一・一九・一五)	一七一

■このファイルについて

標題：注文の多い料理店

序

目次

著者：宮澤賢治

発行：大正十三年十二月一日

販売元：杜陵出版部／東京光原社

本文：「注文の多い料理店」

新選 名著復刻全集 近代文学館 昭和51年4月1日 発行
(第14刷)

表記：原文の表記を尊重しつつWebでの読みやすさを考慮して、以下のように扱います。

- 誤字・脱字等は訂正せず、底本通りとしました。
- 本文のかなづかいは、底本通りとしました。
- 旧字体は、現行の新字体に替えました。ただし、新字体に替えなかった漢字もあります。新字体がない場合は、旧字体をそのまま用いました。

入力：今井安貴夫

ファイル作成：里実工房

公開：2005年9月2日